

目的 幼児の食生活上の問題となるものに偏食がある。食品の選択範囲を広くし、偏りがなければ栄養のバランスのとれた食事となる。しかし、2~3歳頃から食物に対して好き嫌いが現われ、偏りが生じる。嗜好は親、とくに母親の影響があると考えられる。今回は幼稚園児とその母親について嗜好を検討する目的で本調査を行った。

方法 調査時期：昭和56年5月。対象：岡山市S, T幼稚園児262名。方法：所定の用紙により留置記入とした。項目：生活状況、体位、健康・食生活状況、食品の摂取回数、嗜好は幼児と母親に160種の食品について、好き嫌いを調べた。

結果 1.生活状況：両親の平均年齢父35歳，母32歳。平均家族数4.5人。同胞は2人が61%，3人が22%。核家族76%，三世代家族24%である。母親の有職率は76%である。2.体位：幼児の身長別体重は標準域92%，肥満域3%，るいそ域5%である。3.健康：幼児の97%は快調と答えている。平均虫歯数は4.3本である。子食生活状況 食事の注意：才1位は栄養の71%であり。食事量：女児は男子に比べ食事量の少ないものがみられる。食品の摂取：乳・卵・油脂類は毎日食べるの比率が高く，緑黄色野菜類の摂取が低い。4嗜好について 群別の嗜好傾向：嗜好度の高い群別は，女児では果実，穀類，乳製品，男児では卵類，果実，母親は果実，卵類，海藻類である。食品では幼児・母親とも，いすごいの嗜好度が最も高く，次に，女児は乳酸飲料，男児はマーガリン，母親はさつまいもである。嗜好度の低い食品は中ば，豆乳，塩かき，マトンばどがあげられる。嫌いの理由は臭い，辛い，かめない，硬いなどである。母親と幼児，家族構成による違いなど検討を行った。